

②

そもそも「103万円」というのは

給与所得控除 55万円

基礎控除 48万円

の合計なんだ

①

103万円の壁が  
引き上げられて  
160万円に！

これで  
私たちの負担も  
軽くなるね！

ちょっと  
待ったー！

④

ラインを超えて  
所得税の課税対象になると…

- 扶養控除の適用外に  
親や配偶者の  
税負担が増える
- 健康保険の扶養適用外の可能性も  
自分で保険料を  
負担することになる
- 住民税の負担も  
地域によっては  
年間10万円以上  
になることも

③

この103万円  
のラインを超えて  
得た収入は  
所得税の課税対象  
になる

所得税  
課税対象

給与所得控除 55万円

基礎控除 48万円

そうそう！  
だから超えない  
ようにシフトを  
組んだりするね  
本当はもっと  
稼ぎたいけど…

Illusts:Aro



全商連ツイッター

配信中

リンのあきないのコツ

検索

⑥

日本の基礎控除は1995年以来、**ほぼ据え置き**：  
2020年に38万から48万円に上げたけど給与所得控除を削減！

一方、ドイツは**最低限の生活費への課税は違憲！**  
という判決が出て**生活保護基準以上**に引き上げた！

⑤

フリーランスなどの**非給与所得者は基礎控除のみ**なので課税ラインはさらに下がる！

**所得税 課税対象**

**基礎控除 48万円**

まずは基礎控除が大事なのか！

103万円よりも基礎控除の引き上げが優先だよ！

給与所得控除 55万円

⑧

いま必要なのは**基礎控除の大幅な引き上げ**！  
富裕層への税率を昔の水準に戻せば**12兆円の財源**を確保できる試算も！  
**5年で43兆円**という大軍拡をやめることも大切だよ！

この投稿をシェア&コメントして  
みんなで考え、制度を変えよう！

⑦

さらに各国の基礎控除額を比べてみると...

アメリカ 209万円	ドイツ 184万円
フランス 179万円	イギリス 237万円

日本は低すぎ...



全商連ツイッター

配信中

リンのあきないのコツ

検索 🔍

Illusts:Aro